

2. 食事のための自助具

(1) 食事用自助具の選び方

食事は「栄養補給」だけでなく、楽しみの1つとして大切にしなければならない行為です。快適な食事をするために、利用者本人それぞれの「困った」ことに注目して、身体に合った食具や食器を選択するようにします。

「握力」

「手の動き」

「口までの距離」

「食物をこぼさずに口まで運べるか」

等、利用者の状態により選択ポイントは様々ですが、例えば利き手交換した手でも持ちやすく使いやすいお箸やコップ、片手でもすくいやすいお皿など、うまく活用することで一人でも食事をするできるようになります。



用具の重さや形状、使用感以外にも

「清潔を保ちやすいか（衛生的に使用できるか）」

「電子レンジが使えるか」

「食器洗浄機が使えるか」等

管理のしやすさも考慮する必要があります。



。

スプーン1本から自立ははじまり、QOLの向上へとつながっていきます。